

地面が分厚い雪で覆われていても、冬の森は活気にあふれています。気温が低く食べ物もありますが、見渡してみれば、雪の表面に様々な動物の足跡が残っています。

一年のこの時期、ニホンカモシカは(ジオラマの中で雪をかき分けるテンと同様)厚い毛皮のおかげで、見張りに立つ何時間もの間、暖かく快適に過ごすことができます。十和田のカモシカは寒さに慣れていますが、早くも春の到来を待ちわびているのではないのでしょうか。

ブナ若木が噛まれた跡

写真の中の枝をご覧ください。鋭い刃物で切られたように見えませんか？いいえ、枝を切ったのは刃物ではありません。犯人はニホンノウサギです。冬の食料を探すニホンノウサギは、鋭い前歯を使って枝の先端を切り落とすのです。寒く雪の多い季節、雪の色に溶け込むために、ノウサギの毛は白に生え変わります。食生活も変わり、固い樹皮も食べるようになります。足の裏に生えた柔らかい毛のおかげで、ノウサギは深い雪に足を取られることなく、雪原を移動することができます。

アオキの越冬

ヒメアオキは北国の気候に順応した、アオキの一種です。常緑樹ですが、温暖な気候で育つアオキよりも小ぶりです。細くしなやかな幹と枝は、雪の重みでたわむことで、折れるのを防いでいます。ブナの森では他にも同様に寒さへの順応を果たした木々を見ることができます。